

海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1回生 鵜飼 亜咲美

8月14日から8月20日までの7日間、台湾で行われた海外語学研修に参加しました。

中国語講座では、簡単な会話や歌、パイナップルケーキを賭けたゲームなどをしました。最もはっきりと覚えたのは「我想要吃芒果冰」です。

文化講座では、変わった投げ方をするコマや念願のディアボロ、ひたすらに走る舞龍をしました。



観光では、かの有名な九份や故宮博物館、衝撃の米血糕を食べた新竹夜市、220 kgの金塊を持った金瓜石、さすが so expensive な最高に美味しい鼎泰豊の小籠包を食べた台北 101 などに行きました。そして、街中では日本のものの多さに驚きました。スーパーやコンビニの商品、看板などいたるところに日本語が見られました。あれ、ここ本当に台湾？と思うこともありました。ただ、タピオカティのタピオカの量にはさらに驚きました。カップの3分の1程ががタピオカでうまっています。本当です。さて、ここまでは普通の台湾旅行と大差ありません。では、この研修と旅行との違いはなんなのか。それは、以下のふたつにあると思います。

一つめは、元培医事科技大学また病院との交流があるとです。元培医事科技大学の影像醫學博物館と病院見学では、実際の現場や人、機器などにふれたことで、自分の目指すものをリアルに感じる事ができました。専門的なことはわからない部分も多くありましたが、それによってより知りたい、学びたいという思いが増しました。

二つめは、元培医事科技大学の学生さんの存在です。とても明るくて、面白くて、優しいひとたちでした。

私のつたない言葉やジェスチャーを丁寧に聞いてくれました。観光や買い物では中国語がわからない私たちをいつもサポートしてくれました。人混みの中でははぐれないようにと手を取ってくれました。美味しいものがあるとシェアしてくれました。歓送会では一緒に歌って、踊って、サプライズのムービーや色紙をプレゼントしてくれました。会が終わったあともみんなゲームをし、お菓子を食べて、夜遅くまでパーティーをしました。言葉が完璧には伝わらない、さらには7日間という短い時間でこんなにも仲良く



なれるのかと正直驚きました。言葉より気持ちというのは本当かもしれません。ただ、もっとスムーズに話すことができれば、より深い交流を持てたのだらうと考え、語学を学業以外のかたちで見ることでもできそうです。

この研修を通して様々な体験や発見をし、多くのことを学びました。ここで得たことは必ずこれから先に活かしていきます。本当に楽しかったです。このような貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝いたします。